



盛田満教育長

教育行政方針説明

子供たちの「生きる力」をはぐくむための施策を展開する教育行政方針を盛田満教育長が説明しました。その概要をお知らせします。

子供を守る 安心・安全の取り組み

不審者対応では、昨年から開始した不審者情報メール配信サービスによる、情報提供に努めます。

東明地区での、PTAや町会による登下校時の巡回指導、啓発活動等による取り組みを、他地域にも拡充していきます。
登下校時の安全確保のため、青色回転灯を取り付けた公用車によるパトロール等の取り組みを進めます。

学校での安全対策は、子供の



子供の安全を守る地域の取り組みを支援

危機対応能力の向上や防犯教室の拡充を図るとともに、危機管理マニュアルの徹底を図りながら、緊急時の対応に努めます。
自然災害による登下校時などの影響への対応として、気象台など関係機関との連携による安全体制の整備に努めます。

スクール児童館について、今年度は知利別小学校に開設するとともに、大沢本室蘭小学校での開設に向けた準備を進めます。
親の養育放棄や児童虐待への対応については、学校や児童相談所との連携により、早期発見・対応に努めます。

母親クラブ、子ども会、青少年対策推進協議会の活動の統合により、行事や運営の効率化を図るほか、民生委員や保護司会などと連携し、子供たちの健全育成に努めます。

不登校児童生徒に対しては、適応指導教室での学習支援のほか、訪問アドバイザー、スクールカウンセラー（学校でのこ

ろの相談員）などとの連携を図り、教育相談体制の充実に努めます。

食に関する健康について、学校でも指導の必要があることから、北海道教育委員会が導入する栄養教諭の配置を検討します。

「確かな学力」の育成と新しい時代を切り開く人材の育成

教師の力量と資質向上のため、初任者研修や10年経験者研修などの充実に努めるほか、実践的な指導力向上のため、学校の研究を公開するとともに、校内研究充実に向けて支援します。

基礎・基本の徹底を図るため、少人数指導や習熟度別の指導を充実し、問題解決能力や判断力を高める子供の育成に努めます。
工業基盤や技術、人材などの財産を持つ「ものづくりのまち」としての教育力を活用し、体験的な活動等を通して学ぶ意欲を高めるとともに、「ふるさと室蘭」を誇りに思う教育を進めます。

小・中学校で、児童生徒がコンピュータを一人一台使用できる環境が整うことから、実践的に活用できるよう教育情報ネットワークの充実に努めます。
特別支援学級は、新たに小学校4校、中学校1校に開設するとともに、介助体制の充実に努めます。

学習障害や注意欠陥多動性障害などの軽度発達障害の子供への個別指導のため、「教育指導補助員」を配置します。

市民と協働する生涯学習の推進

生涯学習活動を支援するため、施設について、より利用しやすい環境づくりを進めるほか、指導者等の情報提供に努めます。
スクール児童館において、高齢者の知識や経験を生かしたボランティア活動や伝承活動を通じ、世代間交流の促進に努めます。

文化・芸術の振興では、本市収蔵美術品の図録製作や民俗資料館移動展など、芸術作品や生活文化資料が多くの子市民の目に触れるよう努めます。
図書館については、文化センターの活用について関係団体と協議します。また、子供の読書活動推進について計画化を図り、子供が読書に親しむ機会の充実に努めます。



読書は子供たちの豊かな心を育む

共生セミナーの開催や広報紙等での啓発活動など施策の推進に努めます。

時代の進展に対応する教育の推進

平成18年度に開校を予定している星蘭中学校の校舎建設を進めるとともに、朝陽・母恋小学校の統合について、同20年度の開校を目指し、実施設計を進めます。

小・中学校適正配置について、適切な学級数の確保を基本としながら、学校改革も進める必要があるため、学校統合を視野に入れた計画化を図り、学校関係者や地域の人と協議します。
港北幼稚園については、私立を含む幼稚園全体で園児確保が難しくなっている中、公立幼稚園としての存続が厳しい状況にあるため、地域と協議しながら方向性を取りまとめます。

小中一貫教育については、小・中学校の9年間を見通し、子供たちに「確かな学力」を身に付け、個性や能力を伸ばす視点を立った研究を進めます。

公立高校の再編については、今年度から実施される学区拡大の影響や、今後の公立高校の統合を前提とした間口減などの動きを踏まえ、高校対策協議会において協議します。